

夫平さんという人

松江藩松平藩政当時の村落内の行政は、村役人によって行われていた。名主・庄屋を頂点とする組頭・百姓代等であり、村方三役ないしは地方三役と称された。名主・庄屋の下に組頭があつて、名主・庄屋の事務補助を担っていた。この組頭は村の有力な本百姓の中から村民を代表するものが選ばれていた。この役は地域によつて呼び方が異なり、阿井の村では年寄りと呼んで三人が務めていた。そのうちの一人が砂田屋の先代夫平さんであり、年寄役を申し付かったのは一八四八年申年の九月十二日となつてゐる。この夫平さんは砂田屋（大上安部氏）第四代目の当主である。第三代喜三郎夫妻に子が無かつたので、飯石郡（現雲南市）中野村坂本の名原五兵衛の四男として生まれた夫平さんを養子にもらつて安部家を継がせた。夫平さんは子どもの時から相当地な利口ものだつたという。年寄役を申し付かつてから後は、村のために様々なアイディアを考えだし、村人の暮らしが豊かになるように何とかと尽した。

その頃、上阿井の谷口輪（伊井冉西村宅周辺を含んで、現在の米原大橋より北、上阿井大橋より南側の阿井川東岸、米原山本氏宅から川東君谷内田氏宅、立石宅周辺）では、水利が悪く広い土地があるのに耕地として利用できず、荒れ野となつたままの土地が多くあつた。夫平さんは日頃から「この広い土地に水路を導いて開墾したら、良い稲作地として活用できるのではないか。」と考えていた。

嘉永二年ごろから、庄屋の定蔵さん、同じ年寄りの運兵衛さん、彌三郎さんと何度も協議を重ね、みんなで頭をひねつた挙句阿井川から水を引くことにして、上阿井米原上の川向う松山に取水口を開いて、谷口前（西村宅）―石畑（山本宅）―君谷（内田宅）前に注ぐ水路を造ることを立案した。

いよいよ嘉永三年（一八五〇年）に工事に取り掛かかった。この工事の中で最大の難関は、阿井川から水を取り入れる付近のトンネル工事であつた。固い大きな岩盤が進路を塞いでいるため、どうしても岩

に穴をあけてトンネルを通さないといけなかつた。その頃火薬を使つて発破することなどできなかったため、人の手で掘り進むしか方法はなかつた。この近郊にその専門家はいなかったため、職人として名前が通つてゐた国外（常陸の國宇崎村と記されてはいるが？）在住の祐助さんという人を雇い入れて掘り切つたのである。工事を始めて二年、嘉永五年（一八五二）今も残るこの水路が完成した。

このおかげで谷口輪地域には広い良田ができ、年々歳々多量の米を収穫することができるようになつた。

わたしたちは、夫平さん達の業績をたたえると共に感謝しなければならぬ。

夫平さんはこのような偉大な足跡を残して、明治十二年（一八七九年）九月に七十二才で他界され「機山良雄居士」となつておられる。

＊現在の水路は西村宅付近の伊井冉川から取水し、君谷前に注いでゐる。従つて難工事であつた松山取水口付近の岩を掘つたトンネルは、昔の姿をそのまま数の中に眠らせてゐる。）



現在の谷口輪の姿

